

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2010年3月8日 11:00~12:00

講演者 慶應義塾大学 理工学メディアセンター

テクニカルサービス担当 向當麻衣子氏

テーマ 「理工学メディアセンター概要と最近の取り組み」

講義内容

理工学メディアセンターは、慶應義塾大学矢上キャンパス（理工学部・理工学研究科）の図書館で、「本館」（1971年竣工）、「別館」（同1989年）、「創想館」（同2000年）の3つの建物から成り、蔵書数は単行書と製本雑誌を合わせて35万冊程度である。理工学関係の研究者に広く門戸を開放することを目的に、身分証明書の提示があれば誰でも入館可能としている。

一般教養関連の資料は隣接する日吉キャンパスの日吉メディアセンターが収集しているため、理工学メディアセンターでは、理工学の専門図書館としての蔵書構築を行ってきた。理工学系の資料は図書よりも雑誌が中心となるので、製本雑誌が書庫の大半を占めていたが、利用状況等を考慮し、多数の製本雑誌を保存書庫へ移動済である。

近年、洋雑誌はほとんどが電子化されており、教員や大学院生を中心に、メディアセンターではなく、各研究室から電子資料にアクセスする『非来館型利用』が増加している。一方で、学部3年生を中心とした、メディアセンターによく来館する利用者には紙媒体資料のニーズも残っており、個人や団体の学習スペースとしてメディアセンターを利用したいという要望も多い。そこで、保存書庫へ資料を移転した後の本館2階の小スペースをグループ学習室として改装中であり、2010年4月から利用可能となる。グループ学習室は開放的な空間にするため、ファミレスのようなベンチタイプの椅子とテーブルを採用した。さらに、活発な意見交換のできるアイデアルームとしての利用してもらうよう、奥には壁を全面ホワイトボードとした個室を1部屋設けた。創想館には、これまで他地区からの取り寄せ希望の多かった語学学習書、就職関連、資格取得関連の図書や旅行ガイド等を揃えることとした。

2010年度より、理工学メディアセンターとして応募し、採択された創立150年記念未来先導基金プロジェクト「学生スタッフによる図書館における新しいコミュニケーションの場の創生」を開始する。これは、上級生が下級生に履修科目や大学院への進学相談、研究室紹介、その他学習面・生活面でのアドバイスを行うもので、相談窓口を設けて学生スタッフが交代で相談にあたる。これをきっかけに、学生同士のコミュニケーションが生まれることを目的としているので、今後は相談業務やそれ以外のさまざまな企画を学生が主体的に計画、実行していけるよう、理工学メディアセンターとしてサポートしていく。